

サケの観察日記

No.2

2020年1月6日(月)
~1月17日(金)

成長

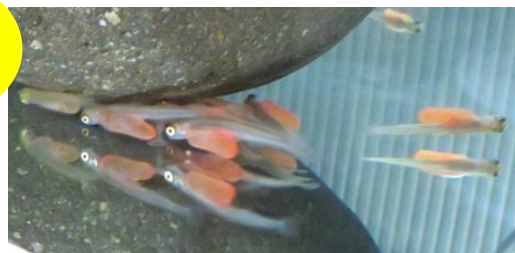


左の写真は12月に卵から出たばかりのサケ。おなかのオレンジ色の袋が目立ちますね。この袋は「さいのう」といって栄養が、たくさんつまっています。

そのため、約1か月間、エサを食べなくてもサケはどんどん成長していくので世話はほとんどいりません。



1/6



おなかの重いので、あまり動きません

1/9



体にパーマークと呼ばれる斑点もようが見えてきました。



1/14



袋が小さくなったので動きが活発になりました。カメラをむけると、にげまわります。

1/17



サケの成長が早く驚きます。袋がなくなったらエサをあげます。

2020年1月20日(月)

学校はサケのエサやり開始

今、市内の小学校でもサケを育てていますが、どちらも廊下に水槽を設置しています。

クーラーによって水温を調節していますが、室温が高いので平均水温が高くなり、私たちが育てているサケよりも成長が1週間以上早いです。

もうおなかの袋がほとんど見えなくなったので、エサをあげはじめました。



私たちのサケ (さいのうがあり、浮上していません)



学校のサケ (浮上しています)

おなかのオレンジのふくろが見えなくなったら

★★★ エサをあげます ★★★

1日2回、決まった時間にエサをあげてください。(休みの日はあげなくてもよいです) 1回にあげる量は、サケが半分まで食べられる量にしてください。エサが足りないと水が汚れてしまいます。エサが足りなくなったらポンプをせいでよいです。



注意 エサをあげるとき、おなかにふくらんでいるサケがエサを食べないように気をつけてください。・・・と置いても、エサの袋がなくなってきて食べてしまうことがありません。そのときはしめたがないので、食べすぎないように気をつけてください。

★★★ エアポンプの電気をいれます ★★★

プラグが抜かれているかどうか、できるだけ毎日確認してください。エサを食べるようになると太りすぎてしまうので、酸素を消費します。あわが弱いとサケが弱くなってしまい、弱ります。

★★★ 水かえをします ★★★

エサが水槽の底に落ちたままの状態だと、水はあまり汚れないので水かえは1週間1回でもよいです。水かえの水は、バケツに半分くらい、茶碗を8~10度くらいにしてから水槽に入れます



エサを食べるようになると、気をつけなくてはならないことがあるので、まとめた資料を学校におくりました。ほうりゅう放流まで元気に育てますように。



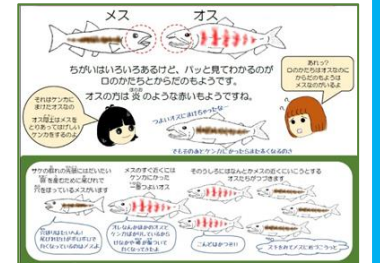
2020年1月31日(金)

ちょっと実験

平成28年度の「サケの観察日記」では大人のサケが体の色を変えることがあると紹介しました。(読んでみてね)

でも実はサケはこどものときから体の色を変えることができます。

おなかの袋もほとんど見えなくなって、今日からエサを食べるようになったサケたちに協力してもらい、ちょっと実験をしてみました。



まず、水槽の中から4尾のサケをコップに入れて、白い紙の上の明るい場所においておきます。



しばらくして、水槽から別のサケを4尾コップに入れて、くらべてみました。左が暗い水槽から出したばかりのサケ。右が白い紙の上においておいたサケです。どうですか？ かすかな色のちがいがわかりますか？



サケと一緒にして、写真を明るくしてみると、黒っぽいサケと、明るい色のサケにわかれているのがわかりますね。明るい色のサケは白い紙の上においていたサケです。



鳥など、上からねらってくる敵に見つからないように、まわりの色にあわせて、体の色を変えたのでした。白っぽい場所で黒い体のままだと、すぐ見つかってしまいますね。

どちらにもサケがいます